

一般財団法人 同友会  
「法人目標」

- 24時間、迅速急性期医療と専門性を持つ医療の充実
- 医療、保健、福祉における包括サービスの提供
- 地域コミュニティ形成を目指す健康増進の推進
- すべての職種に対する医療者としての教育、研修の場の確立

一般財団法人 同友会

藤沢湘南台病院  
藤沢訪問看護ステーション  
居宅介護支援センター  
長後いきいきサポートセンター  
ライフメディカル健診プラザ

- 藤沢湘南台病院  
「病院理念」
- 信頼とやすらぎのある医療
  - 専門性と倫理観のある医療
  - 地域に貢献する医療



## 冠動脈の石灰化

### 衝撃波で治療 ショックウェーブ

藤沢湘南台病院  
循環器内科部長 福島 裕介

#### PCIの進捗と課題

経皮的冠動脈インターベンション（PCI）は、2007年「J-Andreas Gruntzig」によって初めて実施されて以来、冠動脈疾患の治療において大きな役割を果たしてきました。PCIは、バルーンカテーテルによる冠動脈形成術に始まり、ベアメタルステント（BMS）、薬剤溶出性ステント（DES）と進化を遂げ、より複雑な病変に対しても適応が拡大されてきました。

しかし、PCIには課題も存在します。ステント血栓症やステント内再狭窄などの合併症が問題となつてきます。CORR AGE試験やFAME試験などの結果から、PCIの適応決定には適切な症例選択が重要であることが示されています。石灰化病変はPCIの成績に大きな影響

#### 石灰化病変の問題点

石灰化病変は、PCIの成功率を低下させ、術後の心血管イベントリスクを増加させる要因として知られています。石灰化病変では、バルーンカテーテルやステントの拡張が不十分となり、最適な血管拡張が得られない可能性があります。

また、石灰化病変では、ステント留置後のステント内再狭窄やステント血栓症のリスクが高いことが報告されています。既存のデバイスでは、石灰化病変に対する十分な治療効果が得られない場合があります。高度な石灰化病変では、バルーンカテーテルやステントの通過性が悪く、十分な拡張が得られない可能性があります。

また、石灰化病変では、ステント留置後の再狭窄率が高いことが知られています。これらの問題点を解決する治療法がこれから紹介するショックウェーブです。

### 外来診療予定表

医師の異動により  
変更になる場合があります

		月	火	水	木	金	土
内 科	新患 予約外	竹岡 大野	西野(第1・3・5週) 高木(第2・4週) 結城 牛田	織茂 中田	今福 福島/中村	堀 上村	消化器科 担当医 循環器科 担当医
	消化器科 [予約のみ]	西野	堀	山本	松田 高木(第1・3・5週) 西野(第2・4週)	高木	●
	循環器科 [予約のみ]	結城	●	●	●	●	中田(第1週) 大野(第2週) 結城(第3週) 福島(第4週) 中村(第5週)
	総合診療科 [予約のみ]	藤井	藤井	●	●	片岡 (第1・3・5週)	太田 (第2・4週)
	消化器科 [予約のみ]	織茂	高橋 今福	松田	竹岡	●	●
	循環器科 [予約のみ]	福島 中村	中田 仁田	中村	福島 大野	●	●
外 科	総合診療科 [予約のみ]	●	●	●	●	●	●
	緩和ケア科 [予約のみ]	松浦	深野(史)	深野(史)	深野(史)	深野(史)	●
外 科	一般外科	五代 小野	熊切院長 高村	田村	鈴木神祐 古山 山本名譽院長	伊藤	担当医
	大腸肛門科	鈴木総院長 五代 (予約制)	鈴木総院長 深野(雅) (予約制)	鈴木総院長 (予約制)	鈴木神祐 (予約制)	●	担当医 (予約制)
	呼吸器外科	●	熊切院長	●	●	●	●
	乳腺外科	●	●	●	清水 (乳腺外科)	●	●
	甲状腺外科	●	●	●	●	佐々木 (甲状腺外来)	●
	一般外科	高村 船岡	伊藤 古山	(手術)	(手術)	●	●
脳 脊 髄 外 科	大腸肛門科	●	深野(雅)	●	●	田中(良) (第2・4週のみ)	●
	呼吸器外科	熊切院長	●	●	●	●	●
脳 脊 髄 外 科	午前	●	●	市川	●	小倉	●
	午後	●	小倉	篠原	●	●	●

※ 消化器科・循環器科・外科・整形外科・泌尿器科(午後)・総合診療科(午前、午後)は、専門外来(完全予約制)となりますので一般外来は休診となります。  
※ 内科新患・予約外の患者様は、外来担当表のとおりのため医師の指定はできません。 ※ 土曜日午後、日曜日・祝祭日・年末年始は、全科休診です  
※ ご不明な事がありましたら医事課窓口にお問合せください。

### 無料シャトルバス時刻表 (年末年始・日曜祭日は運行をいたしません)

#### 〔巡回マイクロバス〕 湘南台駅・長後駅

病院発	湘南台駅東口	長後駅東口	病院着
		7:45	7:50
		8:05	8:10
8:25	8:38	8:45	8:50
9:05	9:18	9:25	9:30
9:45	9:55	10:00	10:05
10:20	10:30	10:35	10:40
10:55	11:05	11:10	11:15
12:45	12:55	13:00	13:05
13:20	13:30	13:35	13:40
13:55	14:05	14:10	14:15
14:30	14:40	14:45	14:50
15:05	15:15	15:20	15:25

※ 青字は土曜日の運行をいたしません。

#### 〔往復小型バス〕 長後駅(ライフメディカル健診プラザ)

病院発	長後駅東口発	
	平日	土曜
平日	30 50	30 50
土曜	30 50	30 50
平日	8 40	40
土曜	8 40	40
平日	9 00 20 40	00 20 40
土曜	9 00 20 40	00 20 40
平日	10 00 20 40	00 20 50
土曜	10 00 20 40	00 20 50
平日	10 30 50	10 30 50
土曜	10 30 50	10 30 50
平日	11 00 20 40	20 40
土曜	11 00 20 40	20 40
平日	12 00 20 40	00 20 40
土曜	12 00 20 40	00 20 40
平日	13 00 20 40	00
土曜	13 00 20 40	00
平日	14 00 20	
土曜	14 00 20	
平日	15 00 20 40	
土曜	15 00 20 40	
平日	16 00 20 40	
土曜	16 00 20 40	
平日	17 00 20 40	
土曜	17 00 20 40	

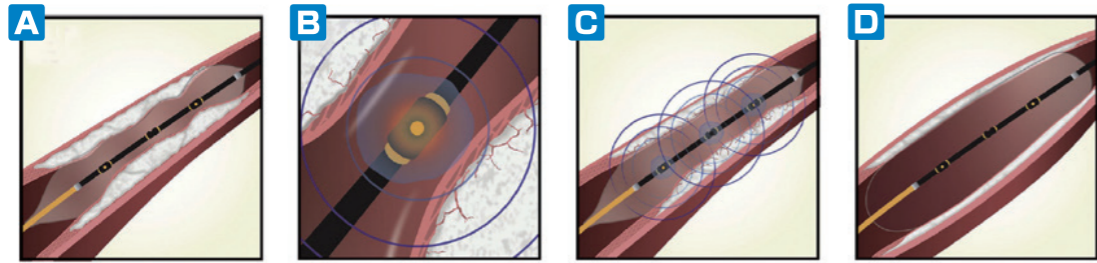


※ 小型バスはライフメディカル健診プラザ東口で発着します

# ショックウエーブの流れ



SHOCKWAVE | C<sup>2</sup>



- A**▶▶▶ 小さなバルーンが付いたカテーテルを石灰化のある箇所では膨らませ対象血管へ圧着させる。
- B**・**C**▶▶▶ 衝撃波で硬い石灰化を砕く。衝撃波は硬い部分に作用する為、血管壁を通過し硬い石灰化を破碎し柔らかくする。石灰化病変は冠動脈血管壁の内側（内膜～中膜）にあるため、破碎後も遠位塞栓症（破碎した石灰病変のくずが血管につまる）のリスクが低い。
- D**▶▶▶ 石灰化が破碎された血管では、冠動脈形成術（PCI）においてステントを適切に拡げることができる。

©2023 Shockwave Medical, Inc. All Rights Reserved

## FUJISAWA SHONANDAI NEWS

当院看護師が湘南ナースに表彰されました。  
 今回の表彰は湘南ナースの称号を授与されて、更に3年勤務された方に病院独自で表彰したものです。



# 石灰化病変へのアプローチ

石灰化病変に対するPCIの成績向上を目指し、様々なアプローチが試みられています。高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルは、高速回転するバーによって石灰化を削り取る方法で、石灰化病変に対する有用性が報告されています。しかし、穿孔などの合併症リスクがあり、慎重な手法が必要とされます。

## Shockwave C2 IVL カテーテルの特徴

石灰化病変に対する新しいアプローチとして注目されています。IVLカテーテルは、低圧でバルーンを拡張し、リントリプシーにより石灰化を破碎する方法で、穿孔などの合併症リスクを低減し、安全性を向上させることが期待されています。

**CARDIOLOGY**  
**FUJISAWA SHONANDAI HOSPITAL**  
**YUSUKE FUKUSHIMA**

### 福島 裕介

平成 19 年宮崎大学卒業

#### 専門医・認定医等

- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本循環器学会 専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会 専門医

このカテーテルは、低圧でバルーンを拡張し、リントリプシーにより石灰化を破碎する方法を採用しています。リントリプシーは、体外衝撃波結石破碎術と同様の原理を応用した方法で、石灰化病変に対する新しいアプローチとして期待されています。

## 今後の展望

Shockwave C2 IVL カテーテルは、石灰化病変治療の新しい選択肢として期待されています。適正使用指針の策定と段階的な導入により、安全性を担保しつつ、実臨床での使用が進められています。今後、実臨床でのエビデンス集積と適正使用指針の改訂を通じて、石灰化病変治療の新しい治療方法の確立が期待されます。PCIは、冠動脈疾患の治療に大きく貢献してきましたが、石灰化病変は依然として大きな課題として残されています。

Shockwave C2 IVL カテーテルは、リントリプシーという新しい機序を用いて石灰化を破碎し、安全性と有効性を向上させる革新的なデバイスとして期待されています。適正使用指針の策定と改訂を通じて、安全性を担保しつつ、新しい治療方法の確立を目指す取り組みが進められています。